



公益社団法人日本口腔インプラント学会関東・甲信越支部

## 第9回 学術シンポジウム

---

メインテーマ

集学的治療としてのインプラントを考える

～ 若手インプラントロジストの取り組み ～

---

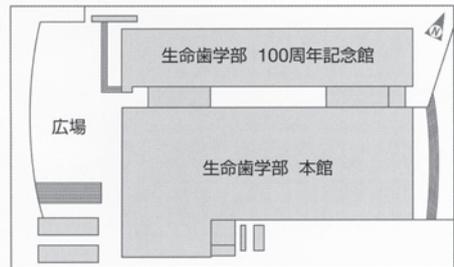
日時 平成30年7月22日(日)

場所 日本歯科大学生命歯学部  
富士見ホール

## ■ アクセス



- JR総武線 「飯田橋駅」下車 西口改札出口
- 東京メトロ東西線 「飯田橋駅」下車 A3～A5出口
- 東京メトロ有楽町線 「飯田橋駅」下車 B2a出口
- 東京メトロ南北線 「飯田橋駅」下車 B2a出口
- 都営地下鉄大江戸線 「飯田橋駅」下車 A4出口
- 東京メトロ東西線 「九段下駅」下車 1番、7番出口
- 都営地下鉄新宿線 「九段下駅」下車 1番出口
- 東京メトロ半蔵門線 「九段下駅」下車 1番出口



**生命歯学部、附属病院とも敷地内禁煙**

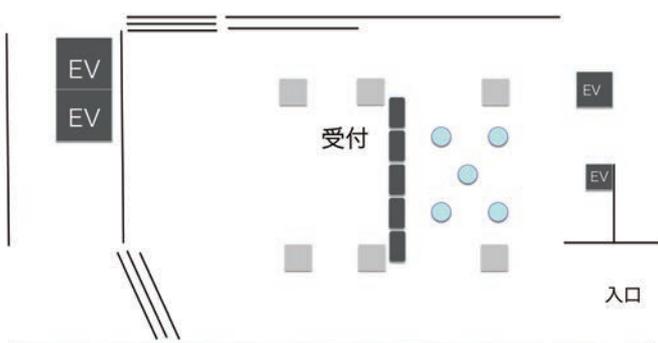
本学では全学をあげて禁煙支援をおこなっています。本学周囲の飯田橋・富士見地区は、千代田区生活環境条例により路上喫煙・吸い殻のポイ捨て等の禁止区域となっており、違反した場合には罰金が科せられます。

今後、医療人である歯科医師等に対して、非喫煙者であることがより強く求められる時代が訪れます。タバコを覚えない、タバコを早い時期に止めることを推奨しています。

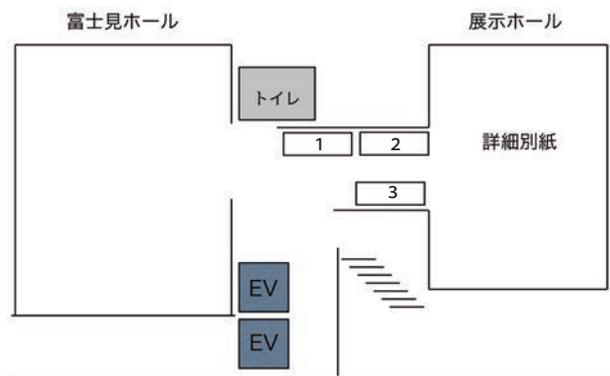
キャンパス禁煙支援委員会

## ■ 日本歯科大学生命歯学部 富士見ホール 館内案内図

1階

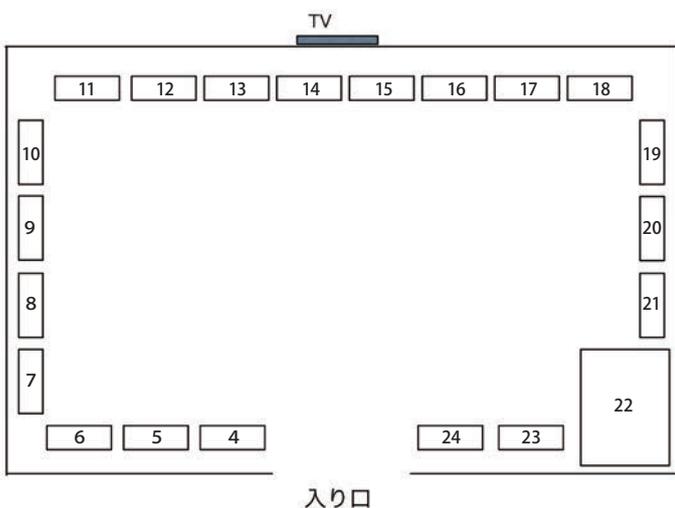


7階



### 企業展示

1	メルセデス・ベンツ日本株式会社	13	株式会社アルタデント
2	株式会社シエン社	14	ノーベル・バイオケア・ジャパン株式会社
3	京都機械工具株式会社	15	デンツプライシロナ株式会社
4	株式会社セキムラ	16	ストローマン・ジャパン株式会社
5	YAMAKIN株式会社	17	株式会社ジーシー
6	株式会社キーラー・アンド・ワイナー	18	株式会社プラトンジャパン
7	株式会社モリタ	19	オーラス
8	松風バイオフィックス株式会社	20	和田精密歯研株式会社 東京営業所
9	相田化学工業株式会社	21	株式会社NRLファーマ
10	有限会社テクニカ	22	株式会社VIPグローバル
11	日本ピストンリング株式会社	23	リゾートトラスト株式会社
12	ケンテック株式会社	24	株式会社メディカルネット



## タイムスケジュール

メインテーマ：

「集学的治療としてのインプラントを考える ～ 若手インプラントロジストの取り組み～」

9:00～9:10 開会式 挨拶：築瀬武史大会長・井汲憲治支部長

### 【セッション1】

座長：矢島安朝・小倉 晋  
9:10～9:30 骨再生医療と今後の展望  
山本麻衣子（東京医科歯科大学 インプラント外来）  
9:30～9:50 インプラント治療における血小板濃縮材料の応用  
ー PRP からの変遷とその検証ー  
磯邊和重（東京形成歯科研究会）  
9:50～10:10 上顎洞挙上術の背景と術後評価  
小川秀仁（みなとみらいインプラントアカデミー）  
10:10～10:35 セッション1 討論

### 【セッション2】

座長：高森 等・田村暢章  
10:45～11:05 顎骨再建・広範囲顎骨支持型装置治療の若手インプラント  
ロジストの取り組み  
寺本祐二（愛知インプラントセンター）  
11:05～11:25 咬合再建を考慮した理想的な骨造成のための外科的挑戦  
～広範囲顎骨欠損への骨髄海綿骨細片移植を中心に～  
土肥雅彦（日本インプラント臨床研究会）  
11:25～11:45 セッション2 討論

### 【セッション3】

座長：塩田 真・上田一彦  
12:45～13:05 矯正治療を伴うインプラントの治療計画と考察  
川原 淳（横浜口腔インプラント研究会）  
13:05～13:25 デジタルソリューションによるインプラント治療  
～ガイド作成から上部構造まで～  
小野里元気（新潟再生歯学研究会）  
13:25～13:45 インプラント治療のマネージメント  
瀬戸宗嗣（日本歯科大学新潟病院口腔インプラント科 助教）  
13:45～14:05 インプラント上部構造としてのセラミック修復の予知性を探る  
積田光由（鶴見大学歯学部クラウンブリッジ補綴学講座 助教）  
（鶴見大学歯学部附属病院インプラントセンター）  
14:05～14:35 セッション3 討論

### 【セッション4】

座長：小田 茂・加藤仁夫  
14:45～15:05 インプラント周囲炎の予防 ～清掃性の高い補綴形態～  
藤井政樹（昭和大学インプラント歯科学講座 助教）  
15:05～15:25 インプラント周囲疾患の治療と予防について  
佐野哲也（総合インプラント研究センター）  
15:25～15:45 日常臨床で遭遇したインプラントトラブルに対する考察  
村山大吾（埼玉インプラント研究会）  
15:45～16:10 セッション4 討論  
16:10～ 閉会式 挨拶：小倉 晋副大会長



## 理事長挨拶

公益社団法人日本口腔インプラント学会

### 理事長 宮崎 隆

この度は築瀬武史大会長のもとで、日本歯科大学生命歯学部富士見ホールにおいて、関東・甲信越支部の第9回学術シンポジウムが開催されることになり、誠にありがとうございます。

本学術シンポジウムは、関東・甲信越支部の相浦洲吉元支部長の提案で2010年に始めた開催されました。本学会は支部制度を設けており、年に一度のいわゆる全国大会の学術講演会に加えて、各支部の学術講演会を定期的に開催してきました。学術大会の中でも、本部学術委員会や各大会長が企画して、様々なテーマのシンポジウムをプログラムに組み込んできました。

そのような状況下で、相浦先生は「シンポジウム」の語源を説明され、古代ギリシャの饗宴（一緒に酒を飲む）であるから、インプラントに係る諸問題を皆で楽しみながら議論する会を始めようと、新企画の支部学術シンポジウムを提案しました。

当初から各研修施設の若手の先生がたに登場していただき、様々なテーマで議論をしてきました。私自身も毎回参加して、関東・甲信越支部の若い先生がたのパワーに圧倒されています。今回は「集学的治療としてのインプラントを考える」というテーマで、12名の講師が4つのセッションで講演し、ベテランの座長を中心に討論します。このような機会を利用して若手の先生が切磋琢磨していくことは、本学会の財産にもなり、また国民の健康回復への貢献につながります。

本シンポジウムは他の支部会員にも門戸を開放していますので、全国から多くの会員が参加し、暑さに負けず熱い討論が繰り広げられることを期待しています。

末筆になりましたが、築瀬武史大会長、田村暢章準備委員長、竹島明道実行委員長以下、準備ならびに運営に当たられた皆さまのご努力に篤く感謝申し上げます。



## 大会長挨拶

公益社団法人日本口腔インプラント学会 常務理事 認定委員会委員長

### 第9回学術シンポジウム大会長 築瀬 武史

相浦洲吉元支部長が提唱され2010年に第1回が開催された関東・甲信越支部学術シンポジウムも第9回を迎えることができました。これもひとえに支部会員の先生方のご理解 ご協力の賜物であり、衷心より感謝申し上げます。本シンポジウムは関東・甲信越支部各研修施設の若手臨床医・研究者により本会年次学術大会や支部学術大会で取り上げられないテーマや旬な学術情報を提供し、なおかつ関東・甲信越支部の融和と活性化を図ることを目的としています。年々、全国的に認知され、参加者も増加していることは大変喜ばしいことです。

口腔インプラント学は的確な診断・診療計画の立案、信頼関係が確立された医療面接、リスクを最大限回避した外科的手技と術中管理、咬合を考えた上部構造、術前からメンテナンスまで一貫された口腔内管理など歯科医学的知識、技術が集約された学問です。

本年は集学的治療としてのインプラントを考えるというテーマで開催されます。

Session1,2では骨再生、PRP、上顎洞底挙上術、顎骨再建、骨造成と外科的手技に欠かせないテーマばかりです。

Session3,4ではマネージメント、治療計画、デジタルソリューション、上部構造、インプラント周囲炎、インプラントトラブルと我々がインプラント治療のルーティンワークの中で考えなければならない重要なテーマです。

本学術シンポジウムへの参加が明日からの臨床を変えるといっても過言ではないと思っています。また、若手シンポジストと経験豊かな座長の先生方との濃厚なディスカッションが行われるのも本シンポジウムの特徴のひとつです。

当日、多くの参加者の皆様と日本歯科大学富士見ホールでお会いできますことを楽しみにしております。末筆になりましたが、本学術シンポジウム開催に多大なるご協力をいただきました企業の皆様、準備にご尽力いただきました上田一彦副大会長、小倉晋副大会長以下実行委員の先生方には心より御礼申し上げます。



## 支部長挨拶

公益社団法人日本口腔インプラント学会

### 関東・甲信越支部長 井汲 憲治

現在、インプラントは歯科治療の中で欠かせない分野となっています。しかし、超高齢社会となった日本においては、高齢のインプラント患者の口腔ケアの問題、そして、インプラント周囲炎の予防と治療は新たな、そして、大きな課題となってきております。また、快適で審美性を有するインプラントの治療が長期化維持できるように配慮することは今も重要なテーマであります。

今回の関東・甲信越支部第9回学術シンポジウムでは、築瀬大会長がご企画された“集学的治療としてのインプラントを考える～若手インプラントロジストの取り組み～”のテーマのもとに、これらの緒問題に取り組んでいる各分野の若手の先生方から、集学的な対応方法をご講演いただけることになっております。まさに Up to Date なテーマであります。

本学術シンポジウムは関東・甲信越支部だけの意欲的な取り組みであり、毎年400名もの参加者を数えております。また、本シンポジウムは、当初よりインプラントに真摯にとりくんでいる研究者や臨床家、とくに若手の先生に日頃の成果をご発表いただくことを目的としておりました。今回のシンポジウムはまさに原点に返った企画であり、若手のインプラントロジストから私たち参加者に、新しい知見と熱い情熱を与えてもらえることになると期待しております。

今回、第9回支部学術シンポジウムの開催にあたり、築瀬武史大会長を始め、実行委員の先生方の熱意とご努力に感謝いたしますとともに、盛会裏にシンポジウムが開催されますことをご祈念申し上げます。また、ご参加いただいた、支部会員の先生方におかれましては、集学的なアプローチを通して多くの回答が得られる一日となりますことを、併せてご祈念申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。



## 祝 辞

### 関東・甲信越支部 第9回学術シンポジウム 開催にあたり

公益社団法人日本口腔インプラント学会

前理事長 渡邊 文彦

歯科医学、医療における口腔インプラント治療の発展は目覚ましく、欠損部位の機能的、審美的、心理的に質の高い回復を可能とし、長期間の予後が望めるようになってきています。先般、International Journal of Implant Dentistryにおける九州インプラント研究会の予後調査にも30年の予後報告がありました。インプラント治療を行う医療機関は全歯科医療機関のうち地域性はありますが、16%に達しており、この傾向は益々多くなると考えられ、受診患者も、使用インプラント数も増加しています。現在ほとんどの大学で口腔インプラント学の授業が実施され、模型を用いた基礎実習も行われており、歯科医師国家試験にも出題され、歯科医療のなかで口腔インプラント治療の必要性が高くなっています。しかしその反面、インプラント治療のトラブルが問題となっています。本大会、支部学術大会は会員の知識向上を目指し、情報提供、情報の共有化を目的としています。さらに口腔インプラント学は急速な知識、技術の進歩があり、関東・甲信越支部は8年前より年一度の支部各術大会の半年前にテーマを絞った学術シンポジウムを開催しています。この度の第9回目は、本学会の理事であり、関東・甲信越支部前支部長で公益社団法人日本先端技術研究所 築瀬武史会長を大会長に「集学的治療としてのインプラントを考える ～若手インプラントロジストの取り組み～」をテーマに日本歯科大学生命歯学部富士見ホールにて開催されることとなりました。

今回は若手研究者、臨床医によりインプラント治療を、関連するそれぞれの分野から見直し、重要な点、問題点、注意すべき点は何かを掘り下げ、これからの方向性を示します。今日、口腔インプラント治療は医療者側にとっても、また患者側にとっても日常臨床での欠損修復の有力な選択肢となっており、全身の健康維持・増進に大きな役割を果たしています。口腔インプラント学、治療は歯科医学を牽引する分野であり、我々の果たす使命は大きいと思います。是非一人でも多くの方にこの学術シンポジウムに参加して、これからの口腔インプラントの取り組みや、進むべき方向を確認して頂きたいと思います。

# 座長紹介

## セッション1



東京歯科大学  
**矢島安朝**

■略歴■

- 1980年 東京歯科大学卒業
- 1985年 東京歯科大学大学院歯学研究科（口腔外科学専攻）修了
- 1995年 ドイツ連邦共和国 Hannover 医科大学  
口腔顎顔面外科学教室に留学
- 2004年 東京歯科大学千葉病院口腔インプラント科 部長（所属変更）
- 2006年 東京歯科大学千葉病院口腔インプラント科 教授
- 2007年 東京歯科大学口腔インプラント学研究室 主任教授
- 2013年 東京歯科大学水道橋病院 病院長  
現在に至る



日本歯科大学附属病院  
口腔インプラント診療科

**小倉 晋**

■略歴■

- 1998年3月 日本歯科大学歯学部卒業
- 1999年4月 日本歯科大学歯学部附属病院インプラント診療科  
医員
- 2004年4月 日本歯科大学歯学部附属病院 助手
- 2009年4月 日本歯科大学附属病院 講師
- 2015年4月 日本歯科大学附属病院口腔インプラント診療科 科長  
現在に至る

## セッション2



日本歯科大学  
**高森 等**

■略歴■

- 1973年3月 日本歯科大学歯学部卒業
- 1977年3月 日本歯科大学大学院歯学研究科 口腔外科学卒業
- 1977年4月 日本歯科大学歯学部口腔外科学教室第2講座 助手
- 1979年4月 日本歯科大学歯学部口腔外科学教室第2講座 講師
- 1986年4月 米国州立ワシントン大学顎顔面外科学 留学
- 1989年4月 日本歯科大学歯学部口腔外科学教室第2講座 助教授
- 9月 スウェーデン・ヨーテボリ市  
ブローネマルク・クリニック短期留学
- 1991年1月 日本歯科大学歯学部附属病院インプラント診療科併任
- 1992年7月 日本歯科大学歯学部附属病院インプラント診療科長
- 2001年1月 日本歯科大学歯学部附属病院  
インプラント診療センター（名称変更）長  
同 口腔外科 助教授
- 2005年6月 日本歯科大学歯学部附属病院口腔外科 教授
- 2009年4月 日本歯科大学附属病院（名称変更）  
インプラント診療センター 教授
- 2015年4月 日本歯科大学附属病院口腔  
インプラント診療科（名称変更）教授
- 2015年8月 日本歯科大学 定年退職
- 2015年9月 日本歯科大学 名誉教授



明海大学歯学部病態診断治療学講座  
高齢者歯科学分野

**田村暢章**

■略歴■

- 1996年 朝日大学歯学部 卒業
  - 2000年 アルバータ州立カルガリー大学医学部（カナダ）留学
  - 2001年 香川医科大学（現・香川大学）医学部大学院医学研究科 修了  
（医学博士）
  - 2003年 香川医科大学（現・香川大学）医学部歯科口腔外科 助手
  - 2006年 明海大学歯学部病態診断治療学講座口腔顎顔面外科学分野 I  
助教
  - 2016年 明海大学歯学部病態診断治療学講座高齢者歯科学分野 講師
- 所属学会等■
- 日本口腔外科学会 専門医、指導医
  - 日本口腔インプラント学会 専門医、指導医
  - 日本顎顔面インプラント学会 指導医
  - 日本老年歯科医学会 倫理委員会幹事

# 座長紹介

## セッション3



東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科  
インプラント・口腔再生医学分野

**塩田 真**

■略歴■

1980年 東京医科歯科大学歯学部 卒業  
1984年 東京医科歯科大学大学院歯学研究科 修了  
1988年 東京医科歯科大学歯学部歯科補綴学第2講座助手  
1996年 文部省在外研究員ジュネーブ大学出張  
1996年 東京医科歯科大学歯学部附属病院インプラント治療部助教授  
2004年4月 東京医科歯科大学大学院インプラント・口腔再生医学分野 准教授

■所属学会等■

日本口腔インプラント学会会員 指導医、理事  
顎顔面インプラント学会会員 指導医、運営審議委員  
日本デジタル歯科学会会員 評議員  
バイオインテグレーション学会会員 理事  
International Team for Implantology Fellow  
ITI Study Club coordinator  
日本補綴歯科学会会員 代議員  
口腔病学会会員 評議員  
WCOI 理事



日本歯科大学新潟生命歯学部  
歯科補綴学第2講座

**上田一彦**

■略歴■

1998年 日本歯科大学新潟歯学部 卒業  
1999年 日本歯科大学新潟歯学部附属病院臨床研修医 修了  
2003年 日本歯科大学大学院新潟歯学研究科 修了  
2003年 日本歯科大学新潟歯学部歯科補綴学第2講座 臨床研究生  
2004年 日本歯科大学新潟病院総合診療科 助手  
2008年 日本歯科大学新潟病院総合診療科 講師  
2013年 ドイツ ハインリッヒ・ハイネ大学  
デュッセルドルフ歯学部口腔外科  
Guest dentist (2013年9月～10月),  
ドイツ ルートヴィヒ・マクシミリアン大学  
ミュンヘン歯学部補綴科  
Guest researcher (2013年11月～2014年10月)  
2015年 日本歯科大学新潟病院口腔インプラント科 医長 准教授  
2017年 日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第2講座 准教授

■所属学会等■

日本補綴歯科学会会員  
日本口腔インプラント学会 (専門医 代議員)  
日本顎顔面インプラント学会会員  
日本スポーツ歯科医学会会員  
日本歯科理工学会会員  
日本歯科医学教育学会会員  
European Association for Osseointegration 会員  
International College of Prosthodontists 会員  
International Team for Implantology  
(Study club Niigata co-director)

## セッション4



東京医科歯科大学歯学部附属病院  
歯科総合診療部

**小田 茂**

■略歴■

1979年 東京医科歯科大学歯学部卒業  
1980年 東京医科歯科大学大学院 (歯科保存学第2講座) 入学  
1983年 東京医科歯科大学歯学部附属病院・助手  
1989年 東京医科歯科大学歯学部・講師  
2000年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯周病学分野・講師  
2011年 東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科総合診療部・准教授

■所属学会等■

日本歯周病学会評議員、歯科衛生士関連委員会委員  
日本歯周病学会専門医  
日本咀嚼学会評議員  
日本レーザー歯学会評議員  
日本口腔インプラント学会学術委員  
日本口腔インプラント学会関東甲信越総務委員長



日本大学客員教授

**加藤仁夫**

■略歴■

1981年 日本大学大学院松戸歯学研究科修了  
1984年 日本大学講師 松戸歯学部 第1口腔外科学教室  
2002年 日本大学助教授 松戸歯学部 総合歯科診療学講座  
2002年 日本大学松戸歯学部附属歯科病院 口腔インプラント科 科長  
2005年 日本大学准教授 松戸歯学部 口腔インプラント学講座主任  
2010年 日本大学松戸歯学部附属病院 口腔インプラント科 診療教授  
2013年 日本大学教授 松戸歯学部 口腔インプラント学講座主任  
2017年 日本大学特任教授  
2018年 日本大学客員教授  
現在に至る

■所属学会等■

日本口腔インプラント学会 代議員・指導医・専門医  
用語委員会副委員長、認定委員会委員、教育研修委員会委員  
日本顎顔面インプラント学会 理事・指導医  
編集委員会委員、専門医制度委員会委員、学術委員会委員  
日本口腔外科学会  
その他



## 骨再生医療と今後の展望

東京医科歯科大学 インプラント外来  
山本 麻衣子

インプラント治療の信頼性が向上すると共にインプラントの需要が増加した。それにとともに、従来インプラント埋入が難しいとされてきた骨量の少ない部位へのインプラント埋入も求められ、それだけではなく、審美的な要求や成功水準要求も上がり、より確実性の高い治療法が求められている。

その、より確実性の高い治療を行う上で欠かせないのが、様々な術式を含む骨移植ではないだろうか。

再生医療の一環としての骨移植の成功要件として、足場的要件、細胞的要件、分化誘導因子的要件がある。

足場的要件として、自家骨は移植材のゴールドスタンダードとして広く用いられているが、採取量の制限やドナーサイトへの侵襲、術後に起こる骨吸収のために使用制限が出る可能性が否めない。そのため、安全で効果的な人工骨が発売され、術式もそれに合わせて低侵襲に改良されてきた。しかし、未だ細胞的要件や分化誘導因子的要件を満たした生体同様のリモデリング能や免疫能、および治癒能力を持つ骨補填材は開発されていない。つまり、再生療法の方法論として、組織工学と細胞移植の2つの方法に大きく分けられるが、その組織工学的な方法としての人工骨は多く開発され、研究が進められているものの、細胞移植などの方法は組み込まれていないのが現状である。

さて、再生医療の基となるのが、細胞の増殖と分化能力である。再生医療分野の名を世間に知らしめた細胞として、iPS細胞や胚性幹細胞（ES細胞）は周知であろう。発見されてから研究が盛んに行われ、様々な問題点を飛躍的なスピードで解決しているものの、倫理的問題や遺伝子導入などの煩雑さから未だ臨床への応用に大きな課題も残されている。

世界では様々な患者を治す「再生治療」と将来の治療を科学的に支える「再生研究」が行われているが、前述の通り、未だ発展途上であり、研究の余地が多く残されている。また、常に新しい内容で更新され、標準化もされにくく、日本の歯科の臨床の場において使用されることも少なく、応用される術式もまだ確立されていない。

今回、骨再生医療の歴史を振り返ると共に、現在の骨再生治療、骨組織工学としての材料の問題点を考察し、再生医療の研究において歯科のみならず、医科の世界で行われている新たな細胞移植含めた研究、動向、規制などを紹介、今後の再生医療の展望について考察したい。

### ■略歴■

昭和大学 歯学部歯学科 卒業

東京医科歯科大学 大学院 医歯学総合研究科 インプラント・口腔再生医学分野 修了 歯学博士

現在、東京医科歯科大学 インプラント・口腔再生医学分野 所属

歯学部附属病院 インプラント外来 医員



## インプラント治療における血小板濃縮材料の応用

### — PRP からの変遷とその検証 —

東京形成歯科研究会

**儀邊 和重**

1998年にマイアミ大学の R.Marx らは臨床研究から、多血小板血漿 (PRP) が顎顔面領域の骨再生において有効であることを示した。その後、スペインの Anitua により PRGF (plasma rich in growth factors) やフランスの Choukroun により PRF (platelet-rich fibrin) が、PRP から派生した血小板濃縮材料として開発された。

最初の PRP の報告により世界中が興味を示し、後に完全自己血由来の PRF の開発によりさらに臨床応用するユーザーが増え世界的な広がりを見せている。

この血小板濃縮材料は「単に高濃度の増殖因子によって組織の細胞が増殖・分化して組織再生が行われる、という事だけでない。組織再生には幹細胞を含む組織細胞の増殖・分化とともに、それらの細胞への血管の新生が不可欠であり、血小板濃縮材料は正にこの血管新生に効果的に働き、間接的に抗炎症作用・疼痛抑制作用・抗菌作用も組織再生に対して、重要な役割をはたしている。」と報告されている。

そこで今回、血小板濃縮材料の概論・歴史的な変遷と、臨床応用されている各血小板濃縮材料の特徴を我々のグループで検証したデータを提示しながら考察し、現在私がインプラント治療で臨床応用している血小板濃縮材料の症例報告を行いたい。

#### ■略歴■

- 1995年 日本歯科大学新潟歯学部卒業
- 1995年 医療法人慈皓会 波多野歯科医院勤務（～2005年）
- 2005年 いそべ歯科医院 開院
- 2006年 東北大学大学院修了 歯学博士
- 2011年 日本口腔インプラント学会専門医
- 2014年 医療法人和貴会 いそべ歯科医院 設立

## 上顎洞挙上術の背景と術後評価



みなとみらいインプラントアカデミー  
小川 秀仁

I 目的：インプラント治療が臨床に取り入れられてから久しく、全世界で多くの症例が行われてきたことは言うまでもない。近年のインプラント治療は、外科術式をより簡便で低侵襲に施行できるものが選択される傾向にあり、その材料や術式は普及し、目を見張るものがある。可能であれば患者も術者もそうありたいと思うのは当然である。しかしながら、上顎臼歯部の欠損後に、治癒過程における形態変化や上顎臼歯部元来の解剖学的形態から、患者にとって侵襲が大きく、合併症の起こる可能性の高い上顎洞挙上術を選択せざるをえない症例が存在するのも事実である。ここ数年の間、特に日本ではコーンビームCTの普及により、術前の診査診断、術後の評価が詳細にされてきている現状がある。結果、予知性高く治療計画を立てることができるため、この術式の背景と術後の良し悪しに関係する要件を検証する。

II 方法：上顎臼歯部欠損症例に対して、同時法、段階法で上顎洞挙上術を施行した。その際、移植材として自家骨と代用骨を使用した。加えて、副鼻腔の特性や上顎洞内の隔壁等の解剖学的形態も考慮し、術後の評価をした。

III 結果：術後6年から11年の症例に対して評価した。手術施行前、上顎洞内の感染や上顎洞粘膜の肥厚の有無は、術後組織の吸収に関係していた。術後顕著な感染がなく経緯を辿ることができればインプラントを支持する十分な骨の存在を認めた。

IV 考察および結論：骨誘導性 骨形成性 骨伝導性のある自家骨の併用は、組織を安定させ、治癒までの期間を短くできる可能性がある。この手法は、外科処置であり感染のリスクがあるため、術後吸収する代用骨を選択することが推奨される。上顎洞内は、含気空洞であり陽圧状態のため、上顎洞粘膜の剥離を鼻腔側まで十分な剥離を行うことが肝要である。上顎洞内に既存骨である隔壁がある症例は、テクニックセンスティブだが骨の形態変化がしにくい傾向があり含気の陽圧状態に抵抗することができ、術後形態的变化が起こりにくく長期的なインプラントの安定に寄与することが示唆された。

### ■所属学会■

日本歯科大学歯学部（東京）卒業  
日本歯科放射線学会 認定医  
日本顕微鏡歯科学会認定医  
日本大学松戸歯学部放射線学講座研究員  
CID Club 理事  
日本口腔インプラント学会会員  
ITI メンバー  
日本顎顔面インプラント学会会員  
NPC(Naoshi Perio Club) 会員  
東京 SJCD 会員  
OJ 会員

# Lecture 4



## 顎骨再建，広範囲顎骨支持型装置 治療の若手インプラントロジストの 取り組み

愛知インプラントセンター  
寺本 祐二

口腔顎顔面領域における腫瘍，嚢胞，外傷，先天異常等により顎骨欠損を生じた際，多くの場合で機能的な再建が必要となり，そのひとつとして近年では歯科インプラント（以下，インプラント）による治療が選択されている．本邦においても広範囲に欠損した顎骨に対して再建術を併用したインプラントによる機能回復の有用性が示されてきた．平成24年4月より「広範囲顎骨支持型装置」として保険診療に導入され，口腔顎顔面領域の疾患に対する治療の発展に寄与してきた．一方でこれらの症例では困難な点が多く存在する．全身麻酔下での施行が多くなり全身管理や周術期管理が求められる．顎骨再建を含めた移植手術を伴うことが多い．がん患者等における放射線治療などに伴う治療課程の異常や薬剤による影響．また，上部構造の複雑性などがある．これらの問題点は一般的なインプラント治療においてもよく見られる課題であり，口腔機能喪失から機能回復への課程を詳細に検討することは，インプラント治療の本質を理解する上で重要である．また，インプラントの成功の基準について1978年のNIHハーバード会議では，インプラント体自体の動揺やインプラント体周囲の比較的大きな骨吸収を許容していた．1998年のトロント会議にて，現在引用されている成功の基準へと改められた．

①インプラントは，患者と歯科医師の両者に満足する機能的，審美的な上部構造をよく支持している．②インプラントに起因する痛み，不快感，知覚の変化，感染の兆候などがない．③臨床的に検査する時，個々の連結されていないインプラント体は動揺しない．④機能開始1年以降の経年的な垂直的骨吸収は1年間で平均0.2mm以下である．

上記の基準から成功を果たすには短期的な視点ではなく長期的な視点でインプラント周囲炎に至らぬようにメンテナンスの重要性を再認識すること，上部構造のトラブルに対応していくこと，全身状態に変化が生じていくことを考える必要がある．ハーバード会議から40年，トロント会議から20年が経過している現在ではさらなる高い成功の基準を目指すべきであると考える．今回これらの症例の口腔機能喪失から機能回復への課程を詳細に報告し，インプラント治療の抱える問題点，治療で難渋したこと，良好な結果へ導くポイント，さらに得られた知見について報告する．次世代を担うインプラントロジストとして，医療の本質におけるインプラント治療の役割を考えてみたい．

### ■略歴■

- 2006年 松本歯科大学歯学部 卒業
- 2007年 松本歯科大学口腔顎顔面外科学講座 助手
- 2011年 信州大学医学部歯科口腔外科学講座 医員
- 2012年 松本歯科大学大学院硬組織疾患制御再建学 修士 歯学博士取得
- 2014年 信州大学医学部歯科口腔外科学講座 助教
- 2014年 信州大学医学部麻酔蘇生学講座 医員
- 2015年 信州大学医学部歯科口腔外科学講座 助教
- 2016年 三重大学医学部歯科口腔外科学講座 医員
- 2016年 伊藤歯科勤務（三重県伊勢市）
- 2017年 寺本歯科医院（三重県鳥羽市）

### ■所属学会■

- 日本口腔インプラント学会 専門医・指導医
- 日本再生医療学会 認定医
- 日本口腔外科学会 認定医



## 咬合再建を考慮した理想的な骨造成のための外科的挑戦

～広範囲顎骨欠損への骨髄海綿骨細片移植を中心に～

日本インプラント臨床研究会  
土肥 雅彦

近年、インプラント治療においてトップダウントリートメントにより、機能的、審美的に理想の位置にインプラント埋入を行うために骨造成を要することが多い。これまでにさまざまな骨造成法が報告されており、歯槽堤や顎骨欠損の量および形態、骨造成する方向、自家骨の供給部位等を吟味して選択される。骨造成に用いる移植材料は、自家骨、同種骨、異種骨、人工骨などがある。その中でも自家骨は骨誘導能に最も優れ、骨補填材のゴールドスタンダードであり、広範囲な顎骨欠損においてもよく用いられる。また、広範囲に大きな骨造成をおこなうようなケースでは特に複数の専門医による集学的治療を要することが多い。本シンポジウムでは広範囲な顎骨欠損への骨造成を中心にいくつかの臨床例を提示し、演者の専門である外科的ポイントについてお話ししたい。

腫瘍切除や外傷などによる広範囲な顎骨の欠損は、顔面の変形、下顎骨の連続性の消失による顎偏位、歯の欠損による咀嚼障害など患者のQOLを著しく低下させる。このような患者に対して顎骨再建をおこなうが、その際あらかじめインプラントによる咬合回復を考慮することが重要である。

一般に下顎骨再建は腸骨からの骨髄海綿骨細片（Particulate cancellous bone and marrow：以下PCBM）移植や、腓骨、肩甲骨、腸骨などを用いた血管柄付き遊離骨・骨皮弁などが用いられている。その中でPCBMを用いた下顎骨再建は理想的な形態をほぼ自由に作るため、インプラント治療による咬合回復を考慮できる顎骨再建法である。演者は顎骨再建前、顎骨再建後のX線CTのDICOMデータより作製した3-Dレジジンモデルを用いて、術前に理想的な形態で正確なチタンメッシュトレーや、歯槽堤形成術に用いるソフトシーネを準備する。これにより両側大臼歯部から広範囲に下顎骨を区域切除したようなケースも極めて理想的な形態の顎骨再建をおこなうことができ、審美的な顔貌回復はもちろんのこと、インプラント埋入と咬合回復に有利な再建骨を作ることができる。当然手術中にチタンメッシュトレーの成形をおこなうのに比べて手術時間の短縮にも寄与する。

### ■略歴■

平成 元年 神奈川歯科大学大学卒業  
平成 元年 神奈川歯科大学大学院歯学研究科（口腔外科専攻）入学  
平成 5年 神奈川歯科大学大学院歯学研究科（口腔外科専攻）卒業  
平成 5年 神奈川歯科大学 口腔外科学第2講座 助手  
平成 16年 神奈川歯科大学 顎顔面外科学講座 顎顔面外科学分野 講師  
平成 18年 横須賀市立うわまち病院総合救急診療部に国内留学  
平成 26年 神奈川歯科大学 特任准教授  
平成 27年 神奈川県立こども医療センター（歯科：口腔外科）

### ■所属学会■

博士（歯学）  
日本口腔外科学会認定「口腔外科専門医」  
日本口腔診断学会認定医  
診療情報管理士  
NPO 法人神奈川歯科大学南東アジア支援団理事



## 矯正治療を伴うインプラントの治療計画と考察

横浜口腔インプラント研究会  
川原 淳

加齢に伴う矯正治療においては、欠損歯、進行した歯周疾患や放置した欠損による病的な歯列不正、多数歯に亘る補綴治療の介入、カリエスや根管治療等、様々な状況が混在し、その結果、治療計画は複雑となり対処に苦慮する事が多い。治療法として、デンタルインプラントを用いた症例があり、良好な長期安定性の報告が増えるにつれて、社会的にも認知され、欠損補綴の第一選択として広く浸透してきている。例えば、大臼歯部の多数歯欠損など咬合支持が欠如している際、早期にデンタルインプラントを応用することにより、失われた固定源の確保と強固な咬合支持の獲得の両方が解決し、残存歯の保護へと繋がる。また、中間歯欠損等でインプラントの埋入スペースが無い場合は、矯正治療を先行しスペースの確保をする必要がある。さらに、術前の状態が、歯列不正を補綴的に改善しようとして既に治療が施されている症例においては、本来の歯軸や歯冠形態に戻したプロビジョナルを作製した上で矯正治療を行わなければならない。その際の、治療ゴールのイメージを明確にするために、セットアップ模型や診断用ワックスアップを作製している。インプラントをどこに埋入すべきか、埋入するタイミング、補綴形態などの問題点も含め、確実に治療を行う上でこれらは重要なステップであり、これを患者に提示することで長期間の治療に対する理解も得やすくなる。

また、包括的な治療における診査において、上下顎中切歯の3次元的な位置関係の評価は、顔貌に調和したスマイルを構築する際の重要な項目として挙げられる。私が診断に用いているプロフィールプログラムの応用は、矯正治療に限らず日常臨床において、欠くことのできない診断法となっております。

今回、上下両側遊離端欠損と上下中間歯欠損の咬合崩壊を伴う二症例に対して矯正、インプラント、補綴治療のステップを診査、診断、治療計画から術後に至るまで考察と共に報告させていただきます。

### ■略歴■

- 1993年 日本歯科大学卒業
- 同年 川原歯科医院勤務～現在に至る
- 1999年 カトウ矯正歯科クリニック（日本矯正歯科学会指導医、専門医）勤務～現在に至る



## デジタルソリューションによるインプラント治療 ～ガイド作成から上部構造まで～

新潟再生歯学研究会  
小野里 元気

近年、歯科治療におけるデジタル技術の発展は著しい。特に CAD/CAM の進歩はめまぐるしいものがある。インプラント治療においても例外ではなく、CT 検査や審査診断、インプラントシュミレーションによるサージカルガイド製作からアバットメント製作、インプラント上部構造製作まで幅広く応用されている。今やこのようなツールは予知性の高い安心・安全のインプラント治療を行うためには欠かせないものとなっている。

特にサージカルガイド製作では、CT のデータをインプラントシュミレーションしたデータと口腔内スキャナーで獲得したデータとをマッチングさせることにより、従来よりも精度の高いガイドを製作することができる。また、口腔内スキャナーにより欠損状態を読み込み、CT 上で補綴設計をすることにより最終補綴物をプランニングすることが可能となる。このことより、補綴主導型インプラント治療の実現に大きく貢献している。

アバットメントの製作では、エンコードやアトランティスを使用し、口腔内スキャナーを使用して精度の高いカスタムアバットメントの製作が可能なことなど利点は多い。

上部構造製作では、カスタムアバットメントを装着した状態で即日製作を可能としている。

これらの過程では時間や補綴時のステップを縮小することができ、ワックスアップや模型作成を必要としない。

当院では患者への不快感・負担を極力減らすためインプラントの一連の治療を印象フリーで行うことを目指しており、その実際を提示する。

### ■略歴■

- 2004年3月 日本歯科大学新潟歯学部卒業
- 2004年4月 医療法人さつき会 ほさか歯科入局
- 2008年4月 医療法人小野里歯科医院入局
- 2013年4月 おのざとデンタルオフィス 開業

### ■所属学会■

- 日本口腔インプラント学会 専修医
- 新潟再生歯学研究会 理事
- 日本先進歯科医療研究会 会員
- IDIA(International Dental Implant Association) Fellowship
- 日本臨床 CAD/CAM 学会 会員
- 日本歯周病学会 会員
- 日本臨床歯周病学会 会員
- 群馬歯周治療研究会 会員
- デンツプライシロナ株式会社 ライブデモ講師



## インプラント治療のマネージメント

日本歯科大学新潟病院口腔インプラント科 助教  
瀬戸 宗嗣

近年歯科のデジタル化は目覚ましいものがあり、インプラント治療においても様々な部分で影響を受けている。特に日本においては歯科用CBCTの普及により、術前にシミュレーションを行うことで診断をより正確に行えるようになってきている。デジタル化によって、外科処置では術前のシミュレーションによるガイドットサージェリーが可能となり、補綴処置ではより審美的、機能的な材料の使用が可能となるなど、日々の臨床では外せない要素となっている。また最近では、光学印象も臨床応用され、補綴物製作時、印象材だけでなく石膏模型も不要な時代になってきている。

これらの材料や技術が、日進月歩で進化することで、早く、安全、確実な治療が可能となってきている。しかし、実際の臨床では問題はないでしょうか？どんなに診査診断技術や治療用器具器材が普及しても、それを扱う我々の能力が伴わないと重大なトラブルが発生する可能性も秘めている。外科処置においては、どんなに安全な手術計画を立案しても、基本的な切開や縫合の技術、リスクマネージメントを考慮した外科処置施行の意識が欠如しているといつか大きな失敗につながる可能性がある。埋入位置のわずかなズレで補綴物の設計は変わり、予後に影響を及ぼす可能性がある。例えば、どんなにいい材料を使用しても支台歯形成が雑であれば予後不良へつながるし、材料の適応を間違っても、同じ結果になる可能性がある。ジルコニアを選択したから割れないという単純な発想ではいけないのではないのでしょうか？われわれ若手がより良い医療を提供するためには、地道な日々の研鑽を積むことはもとより、ベテランの経験値や技術の差を埋めるために、積極的にデジタル技術などの進歩についていく必要がある。

今、日本の大学では、口腔外科、補綴科、歯周科など様々な分野の出身者がインプラント治療を行い講座や診療科として活動している。しかし、これからはインプラント科で育った若手がインプラント界を牽引する時代になっていくと思われる。インプラント学の授業を受けた学生が歯科医師となり、インプラント治療を行う時代になります。本シンポジウムのテーマでもある、「集学的治療としてのインプラントを考える」というテーマに合うよう、インプラント専門医としての視点から、先生方の普段の臨床に少しでも役立つインプラント治療のマネージメントについて考察していきたい。

### ■略歴■

- 2008年3月 日本歯科大学新潟生命歯学部 卒業
- 2009年3月 日本歯科大学新潟病院 臨床研修 修了
- 2009年4月 日本歯科大学大学院新潟生命歯学研究科 入学
- 2013年3月 同上修了 博士(歯学)
- 2013年4月 日本歯科大学新潟病院総合診療科 非常勤
- 2015年4月 日本歯科大学新潟病院口腔インプラント科 助教

### ■所属学会■

- 日本口腔インプラント学会 専門医
- 日本補綴歯科学会
- 日本歯科理工学会



## インプラント上部構造としてのセラミック修復の予知性を探る

鶴見大学歯学部クラウンブリッジ補綴学講座 助教  
鶴見大学歯学部附属病院インプラントセンター  
積田 光由

近年、CAD/CAM をベースとした Digital Dentistry の普及によって、歯科治療に大きな変革が生じた。インプラント診療においても、術前の診査診断、手術支援、上部構造の製作にいたるまで、そのテクノロジーが活用されている。材料学的にもその恩恵は大きく、ジルコニアを代表とした従来は応用することのできなかった高強度材料が使用可能となった。現在、ジルコニアはメタルフリー修復において欠かすことのできない材料として、日々の臨床に応用されている。

クラウンブリッジやインプラント上部構造において、ジルコニアをオールセラミッククラウンのコーピングやブリッジのフレームワークとして用いることで、修復物の複合体としての強度は向上した。最近では、ジルコニアをモノリシックで応用することで、レイヤリングポーセレンのチップングリスクを気にすることなく、オーラルリハビリテーション後の咬合接触状態の安定を得ることが可能となった。また、従来はクリアランス不足のために審美的補綴を断念していたような症例においても修復が可能となったことは、ジルコニアモノリシックの佳処であろう。

ジルコニアのモノリシックでの応用は、優れた強度や耐摩耗性等の観点から歯冠修復材料としても理想的であるように思われる。しかし、単独歯や少数歯での修復に用いた際の長期予後はどうであろう。我々は、天然歯列が経年的にその形態を変化させてゆくことを知っている。ジルコニアモノリシックはそこにあって、周囲の変化に追随・調和することが可能であろうか。臨床家として、装着した補綴装置のみならず、歯列全体の予後を考えた場合、その適応については慎重にならざるをえない。

一般的に、インプラント補綴後のトラブルとしては前装材料の破損が最も多く報告されており、次いで歯周組織のトラブル、アクセスホールトラブル、スクリューの緩み、セメント維持力の喪失とされる。上部構造に用いられた前装材料の破損を予防するためには幾つかの方法が考えられるが、これらのトラブルを可能な限り予防することは、インプラントの生存率を高めることにも繋がるため、現在、臨床家に求められている重要テーマの1つであろう。

インプラントを長期的に安定して機能させるためには多くのファクターが存在する。今回は上部構造、特にセラミック修復に焦点を絞り、その予知性について検討を行ってみたい。

### ■略歴■

- 平成 14 年 3 月 鶴見大学歯学部卒業
- 平成 15 年 3 月 鶴見大学歯学部臨床研修歯科医修了
- 平成 19 年 3 月 鶴見大学大学院歯学研究科修了
- 平成 19 年 5 月 鶴見大学歯学部歯科補綴学第二講座学部助手
- 平成 22 年 4 月 鶴見大学歯学部附属病院口腔顎顔面インプラント科助教
- 平成 26 年 4 月 鶴見大学歯学部クラウンブリッジ補綴学講座助教  
鶴見大学歯学部附属病院インプラントセンター



## インプラント周囲炎の予防 ～清掃性の高い補綴形態～

昭和大学インプラント歯科学講座 助教  
藤井 政樹

インプラント治療は高い予知性と患者満足度により、補綴治療の一つのオプションとして広く普及している。表面性状やインプラントデザインの改良により、オッセオインテグレーションをいかに獲得するかという時期は過ぎ、近年では審美的結果を得るための軟組織移植の術式や骨補填剤やメンブレンの開発、また治療期間短縮のための即時負荷の術式の進歩が目覚ましい。その一方でインプラント周囲粘膜炎やインプラント周囲炎といった生物学的合併症が増加し問題となってきた。インプラント周囲炎はインプラントの脱落に直結する病態であり、その対応は緊急かつ重要である。インプラント周囲炎は喫煙や糖尿病等の全身的な原因と口腔衛生状態の不良や角化粘膜の不足、歯周病の既往等の局所的な原因による多因子疾患であると考えられている。またインプラント周囲炎の治療には術式としては非外科的治療と外科的治療（再生療法・切除療法等）があり、また使用する器具としてはインプラントプラスチックのためのバーや表面の除染のためのレーザーやチタンブラシ等多岐にわたるが、いまだ明確な治療法が確立されているとは言えない。そのためインプラント周囲炎治療の確立を急ぐとともに、埋入設計段階でのインプラント周囲炎の予防に取り組むべきと思われる。今後我々は平均寿命100歳時代を迎え、ますますインプラントの需要とその長期予後への期待が高まることは言うまでもない。超高齢社会におけるインプラント周囲炎の予防においては、患者に過度の巧緻性を要求しない、清掃性の高い補綴装置の設計と作製が重要であると考えられる。

インプラント周囲炎予防のための補綴装置の設計と製作においては

- ・ 小臼歯形態の補綴装置の作製
- ・ ポンティックの活用（隙・カンチレバーを含む）
- ・ 最大豊隆部の設計が重要であるとする。

発表では筆者の経験した臨床例とともに上記点について解説させていただきます。

### ■略歴■

- 2007年 東京医科歯科大学歯学部歯学科卒業
- 2008年 東京医科歯科大学大学院インプラント口腔再生医学分野入局
- 2012年 東京医科歯科大学大学院インプラント口腔再生医学分野修了 博士号取得
- 2013年 東京医科歯科大学インプラント外来 医員
- 2018年 昭和大学 インプラント歯科学講座 助教



## インプラント周囲疾患の治療と予防 について

総合インプラント研究センター  
**佐野 哲也**

Derk ら (2015) は、スウェーデンにおいてインプラント周囲粘膜炎の発症率は 43%、インプラント周囲炎は 22% であったと報告しています 1)。このデータは海外の研究によるものですが、日本においてもインプラント周囲疾患は極めて一般的な疾患となってきていることは皆さんも日々の臨床で実感されていると思います。しかしインプラント周囲疾患のうちインプラント周囲炎に対して、いまだ治療のプロトコルが確立していないが現状です。プロトコルが無いからといって、疾患を放置することも出来ないため、我々は日常臨床において何らかの治療を行わざるを得ないのが現状だと思います。インプラント周囲炎の治療として、超音波スケーラーやレーザー、エアフローなどによる非外科治療や外科治療が提案されています。インプラント周囲疾患に対する治療の効果は数多くの研究が行われ、またシステマティックレビューも多く発表されており、分かってきていることも多くなっています。それゆえインプラント周囲疾患に遭遇した際、どのように治療をすればいいかについて、ある程度の方向性は判明してきていると思います。これまでに蓄積されたエビデンスを検討しながらインプラント周囲疾患の治療や発症の予防に関して、エビデンスに基づき私自身がどのように治療しているか、また実際の臨床で実感していることをお話ししていこうと思います。

### ■略歴■

平成 10 年 3 月 日本大学歯学部卒業  
平成 15 年 1 月 東京都八王子市にて開業  
平成 27 年 2 月 日本口腔インプラント学会専門医取得  
平成 28 年 5 月 日本歯周病学会専門医取得  
現在に至る



## 日常臨床で遭遇したインプラント トラブルに対する考察

埼玉インプラント研究会

村山 大悟

歯科インプラント治療は、診療費用を全額自己負担する自由診療であるが、残存歯への負担や侵襲がより少なく、審美的な回復も可能である等の利点から、歯が欠損した場合に生活の質を向上させることのできる有効な治療法である。国民健康・栄養調査や歯科疾患実態調査によると、歯が抜けたところの治療法としてインプラントを選択し、インプラントを装着している人の割合は平成16年には10.2%で、約10年後の平成28年には倍の24.4%にまでのぼった。平成20年医療施設(静態・動態)調査結果によると、全国の歯科医療機関の21.5%(14,580施設)でインプラント治療が行われていたが、現在も更にインプラント治療を行う歯科医療機関が増加している。

一方、PIO-NET(全国消費生活情報ネットワーク・システム)には、歯科インプラント治療により危害をうけたという相談が数百件単位で増加傾向にある。これらの相談の中で、痛みや腫れ等の身体症状が継続した期間は、1ヵ月を超えて身体症状が継続したという相談が75.5%で、そのうち41.6%は1年を超えて身体症状が継続したという相談だった。また、危害を受けたという相談の82.5%は相談受付時に身体症状が継続しているものであった。身体症状の内容は、歯や口腔の痛み、腫れ、痺れや嘔み合わせの問題などさまざまであったが、口唇や歯茎に麻痺が残った、痛みが取れず夜も眠れない、食べ物を噛めず体調を崩したなど、治療上生じた問題によって日常生活までに影響が及んでいるという相談が目立っている。

歯科インプラントの治療の流れとして①診査・診断・治療計画②初期治療③1次施術④2次手術⑤補綴処置⑥メンテナンスがあるが、各ステップごとに約15年間の歯科医師人生で遭遇したインプラントトラブル、失敗について考察を含めて発表し、少しでもインプラントトラブルの減少につながれば幸いである。

### ■略歴■

- 2002年 神奈川歯科大学歯学部卒業 神奈川歯科大学総合診療科
- 2003年 神奈川歯科大学顎顔面外科学講座医員
- 2004年 秋田大学医学部付属病院 歯科・口腔外科医員
- 2006年 医療法人 入江歯科医院勤務
- 2011年 日本歯科大学生命歯学部大学院歯学研究科卒業 博士(歯学)取得  
日本歯科大学生命歯学部非常勤講師
- 2012年 日本口腔インプラント学会専門医
- 2013年 日本口腔インプラント学会 第4回関東・甲信越支部学術シンポジウム実行委員
- 2014年 日本口腔インプラント学会 第44回学術大会実行委員  
医療法人 Win-Win 理事長就任

## 第9回学術シンポジウム実行委員会

大会長	築瀬 武史	公益社団法人日本歯科先端技術研究所
副大会長	上田 一彦	日本歯科大学新潟生命学部歯科補綴学第2講座
副大会長	小倉 晋	日本歯科大学附属病院口腔インプラント診療科
準備委員長	田村 暢章	明海大学歯学部病態診断治療学講座高齢者歯科学分野
実行委員長	竹島 明道	公益社団法人日本歯科先端技術研究所
アドバイザー	相浦 州吉	一般社団法人 日本インプラント臨床研究会
	井汲 憲治	一般社団法人 日本インプラント臨床研究会
	江黒 徹	公益社団法人 日本歯科先端技術研究所
	榎本 紘昭	新潟再生歯学研究会
	大久保 力廣	鶴見大学歯学部付属病院補綴科
	大田 善秋	一般社団法人 日本インプラント臨床研究会
	奥寺 元	一般社団法人 東京形成歯科研究会
	小田 茂	東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科総合診療部
	黒岩 茂	新潟再生歯学研究会
	笹谷 和伸	一般社団法人 日本インプラント臨床研究会
	塩田 真	東京医科歯科大学歯学部附属病院
	高森 等	日本歯科大学附属病院口腔インプラント診療科
	樋口 大輔	昭和大学歯学部歯科補綴学講座
	廣安 一彦	日本歯科大学新潟病院口腔インプラント科
	藤野 茂	一般社団法人 インプラント再建歯学研究会
	宮崎 隆	昭和大学 歯学部長
	矢島 安朝	東京歯科大学附属病院口腔インプラント科
	山口 葉子	昭和大学歯学部インプラント歯科学講座
	渡邊 文彦	日本歯科大学新潟病院口腔インプラント科
実行委員	秋葉 陽介	新潟大学医歯学総合病院冠ブリッジ科
	石浦 雄一	昭和大学歯学部インプラント歯科学講座
	上木 耕一郎	山梨大学医学部歯科口腔外科
	上田 一彦	日本歯科大学新潟病院口腔インプラント科
	植松 裕雅	NPO 法人ユニバーサルインプラント研究所
	大八木 章好	一般社団法人東京形成歯科研究会
	小川 秀仁	みなとみらいインプラントアカデミー
	小宅 宏史	NPO 法人埼玉インプラント研究会
	熊坂 士	東京女子医科大学医学部歯科口腔外科学講座
	栗山 壮一	公益社団法人日本歯科先端技術研究所
	黒澤 悟	新潟再生歯学研究会
	小林 誠	横浜口腔インプラント研究会
	斉藤 安奈	松本歯科大学病院
	鈴木 善晶	一般社団法人インプラント再生歯学研究会
	関 啓介	日本大学歯学部付属歯科病院特殊診療部歯科インプラント科
	関矢 泰樹	総合インプラント研究センター
	玉木 大之	日本大学松戸歯学部付属病院口腔インプラント科
	積田 光由	鶴見大学歯学部附属病院インプラントセンター
	中田 秀美	東京医科歯科大学歯学部附属病院インプラント外来
	日野 峻輔	埼玉医科大学総合医療センター
	本間 慎也	東京歯科大学附属病院
	村田 拓也	東京医科大学医学部口腔外科学分野
	矢島 奈央子	神奈川歯科大学附属病院口腔インプラントセンター
	山田 慎一	信州大学医学部附属病院歯科口腔外科
	山田 麻衣子	日本歯科大学附属病院口腔インプラント診療科
	若井 広明	一般社団法人日本インプラント臨床研究会

(五十音順 敬称略)



Japanese Society  
of Oral Implantology

# 公益社団法人日本口腔インプラント学会 第38回 関東・甲信越支部学術大会

演題登録期間 : 2018.7.2~10.31  
事前参加登録期間 : 2018.8.1~12.20

<http://web.apollon.nta.co.jp/jsoi38/>

## インプラント治療を通して 歯科医療の未来を考える

大会長

矢島 安朝

東京歯科大学口腔インプラント学講座 教授

実行  
委員長

飯島 俊一

東京歯科大学  
水道橋病院・千葉歯科医療センター 口腔インプラント科 臨床教授

準備  
委員長

本間 慎也

東京歯科大学口腔インプラント学講座

日時

2019.2.10(日) - 11(月・祝)

会場

京王プラザホテル (東京・新宿)

〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1

運営事務局

株式会社 インターベント

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 2-21-10 セブンビル 7F

TEL 03-3527-3893 FAX 03-3527-3889

株式会社 学術社

〒115-0055 東京都北区赤羽西 6-31-5

TEL 03-5924-1233 FAX 03-5924-4388



## 第9回学術シンポジウム協賛企業一覧

### 企業展示

相田化学工業株式会社	有限会社テクニカ
株式会社アルタデント	デンツプライシロナ株式会社
株式会社NRLファーマ	日本ピストンリング株式会社
オーラス	ノーベル・バイオケア・ジャパン株式会社
株式会社キーラー・アンド・ワイナー	株式会社VIPグローバル
京都機械工具株式会社	株式会社プラトンジャパン
ケンテック株式会社	株式会社メディカルネット
株式会社シエン社	メルセデス・ベンツ日本株式会社
松風バイオフィックス株式会社	株式会社モリタ
株式会社ジーシー	YAMAKIN株式会社
ストローマン・ジャパン株式会社	リゾートトラスト株式会社
株式会社セキムラ	和田精密歯研株式会社 東京営業所

### 広告協賛

アース製薬株式会社	東京メディカルスクール株式会社
医歯薬出版株式会社	株式会社ブレンベース
京都機械工具株式会社	メルセデス・ベンツ日本株式会社
有限会社ゼニス出版	株式会社モリタ
全身管理歯科研究会	株式会社ヨシダタロウ

(五十音順)

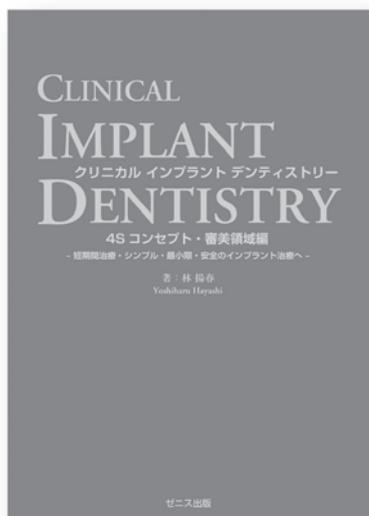
## 第3弾

# CLINICAL IMPLANT DENTISTRY

## クリニカルインプラントデンティストリー

### 4Sコンセプト・審美領域編

#### 短期間治療・シンプル・最小限・安全のインプラント治療へ



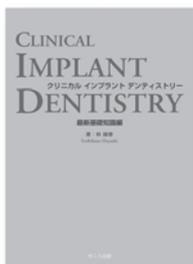
著者：林 揚春  
体裁：B5判 190頁  
定価：8,840円+税

4Sコンセプトとは、4つの「S」からなる Short (短期間治療)・Simple (シンプル)・Small (最小限)・Safe(安全)を基本とした、著者が提唱する患者目線のやさしいインプラント治療である。現在のインプラント治療は治療期間中の QOL 低下を防ぐことまで配慮をする必要があり、インプラント埋入処置と同時の即時プロビジョナリゼーションは患者の要求を満たすための第一目標になっている。そしてこれらの目標を達成するためには、骨移植や GBR・CTGなどを念頭に置いた従来の治療プロトコルでは対処ができない。

本書では、筆者が臨床から得られた経験をもとに、多岐にわたる臨床ケースを示しながら 4S コンセプトに基づいた患者のための新たな治療プロトコルを提案する。

## CONTENTS

- CHAPTER 1 治療期間短縮へのステップ
  - CHAPTER 2 インプラントの埋入時期とその対処
  - CHAPTER 3 埋入時期 Type I に対する抜歯即時埋入(UU-shaped defect)・即時プロビジョナリゼーション
  - CHAPTER 4 埋入時期 Type I に対するルートメンブレンテクニックと即時プロビジョナリゼーション
  - CHAPTER 5 埋入時期 Type II に対するインプラント埋入と即時プロビジョナリゼーション
  - CHAPTER 6 埋入時期 Type III に対するインプラント埋入と即時プロビジョナリゼーション
  - CHAPTER 7 埋入時期 Type IV に対するインプラント埋入と即時プロビジョナリゼーション
  - CHAPTER 8 即時荷重・即時プロビジョナリゼーションに必要な条件
  - CHAPTER 9 Pink Esthetic Score：審美性の評価 前歯部欠損修復における治療結果の評価法
  - CHAPTER 10 Zirconia-Galvano-Conus-Bridge メンテナンス優先の補綴設計
- 審美領域インプラントにおける外科的手法と補綴操作のポイント



最新基礎知識編  
定価：8840円+税

本書はインプラント治療を応用した全人的な歯科医療を理解するためのシリーズ刊行第一弾である。どのインプラントシステムに偏ることなく症例に適したインプラントシステムの選択基準、治療計画や手順などを実践するための基礎となる書である。

### Contents

- CHAPTER 1 歯科医療が目指すべきもの
- CHAPTER 2 インプラント治療の目的
- CHAPTER 3 インプラント治療計画時の確認および決定事項
- CHAPTER 4 インプラントの選択
- CHAPTER 5 インプラントのポジショニング
- CHAPTER 6 インプラント補綴処置の【真】基準
- CHAPTER 7 症例から理解するインプラント 最新基礎知識



抜歯即時埋入  
インプラント編  
定価：8840円+税

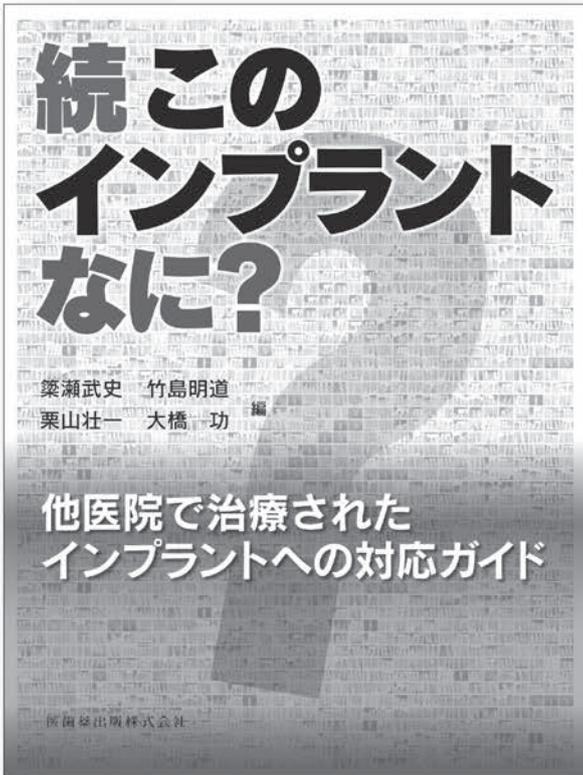
先に発刊された最新基礎知識編をベースに展開される各論テクニック編の先陣となる一冊。抜歯即時埋入は、治療期間の大幅な短縮につながる。高齢化社会が進む中で治療のスピードは患者の健康を守る上で欠かせないファクターとなる。

### Contents

- CHAPTER 1 抜歯即時埋入インプラントの臨床的意義
- CHAPTER 2 抜歯即時埋入の非適応症を検証する
- CHAPTER 3 抜歯後のアプローチを検証する
- CHAPTER 4 審美領域における抜歯即時埋入の 詳細手順と各ステップのポイント
- CHAPTER 5 臼歯部における抜歯後のアプローチ
- CHAPTER 6 抜歯即時埋入における Socket-shield technique

詳細については小社ホームページ<http://www.zenith-press.com>まで

# 続この 他医院で治療された インプラントへの対応ガイド インプラントなに？



編  
**築瀬武史** (公社) 日本歯科先端技術研究所 会長 / (医) 泰峰会 ヤナセ歯科医院  
**竹島明道** (公社) 日本歯科先端技術研究所 / 竹島歯科医院  
**栗山壮一** (公社) 日本歯科先端技術研究所 / 田園調布デンタルクリニック  
**大橋 功** (公社) 日本歯科先端技術研究所 / おおはし歯科医院

## 大好評の前書に続く 待望の続編が堂々完成!!

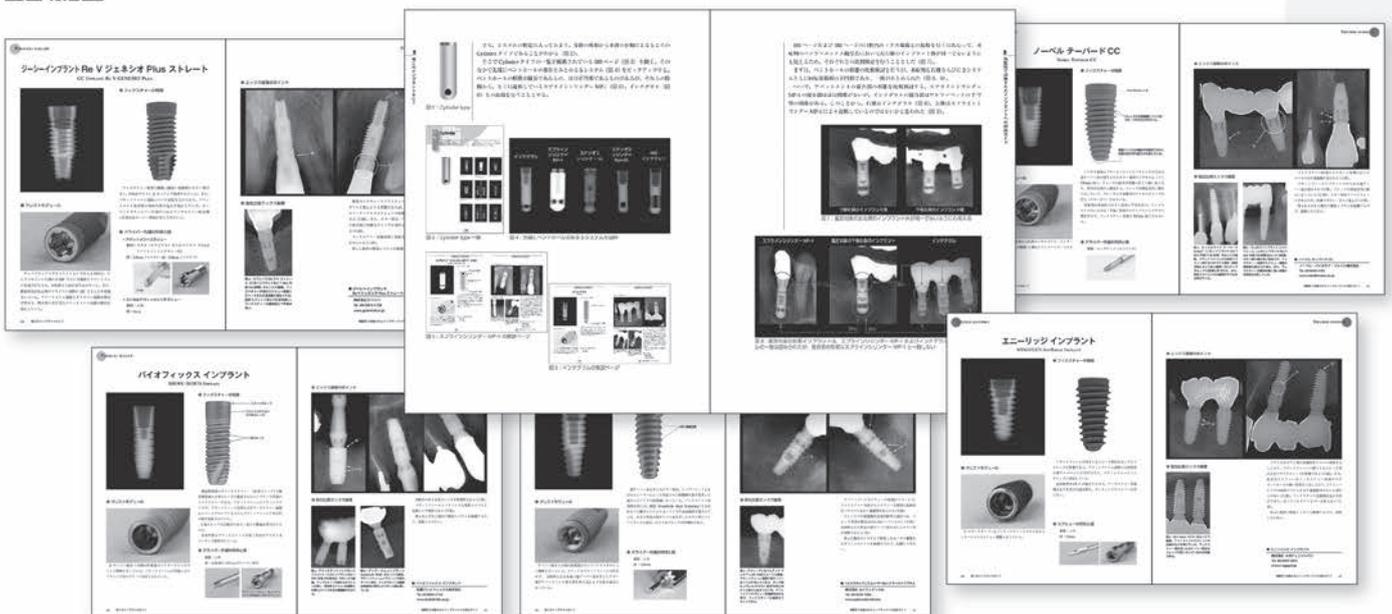
来院した患者さんが他医院で既にインプラント治療を受けているケースや、他医院で受けたインプラント治療にトラブルが生じて来院したケースなど、口腔内に埋入されているインプラントシステムの特定が難しい場合に役立つ歯科医院必携の一冊。

類似したシステムは比較エックス線像を用いてその違いを解説することで、インプラントシステムの特定をサポート。

インプラントシステム特定の勘所と実際を本書を応用して具体的に解説。



■A4判変型・104頁・オールカラー  
 ■定価 (本体 10,000円+税)  
 ISBN978-4-263-44497-9



歯科医院専売

# モグミン プロケアα

ノンアルコールタイプ

インプラント治療後のセルフケアに!  
刺激が少ないノンアルコールタイプ

インプラント  
治療後に

歯肉炎  
予防に

歯垢付着  
予防に

口臭の  
防止に



洗口液

Thinking ahead. Focused on life.

MORITA

THOMMEN  
Medical



# SPI® World Symposium in Japan

SPI®ワールドシンポジウム in Japan

～症例から判るSPIシステムとこれからのインプラント治療～

SPIインプラントシステムはプラットフォームが変わることなく  
30年を迎えました。

永続的にメンテナンスが出来ることがインプラントにおいて最も重要  
であるとのメーカーの信念のもとインプラント体を提供しております。

SPIシステムの理念でもある長期安定性はグルンダー先生のアドバイスの  
もとインプラント体の強度、スクリュー固定に特化した構造などに  
生かされています。

Date 2018.11.4(sun.)

Capacity 300名

Place 三井住友銀行 東館  
ライジングスクエア  
東京都千代田区丸の内1-3-2

お申込みはお早めに!  
[www.dental-plaza.com/](http://www.dental-plaza.com/)



講師  
演者

## Dr.Ueli Grunder 来日講演決定!

なぜグルンダー先生はSPIしか使わないのかを実際のオペのビデオを交えてご講演いただきます。



Dr. Ueli Grunder



甘利 佳之 先生



石川 知弘 先生



梅田 和徳 先生



勝山 英明 先生



古賀 剛人 先生



小宮山 彌太郎 先生



白土 徹 先生



鈴木 健造 先生



山中 浩明 先生

お問合せ 株式会社モリタ セールスプロモーション部4G T 03.3834 6165 F 03.3834 2818

株式会社 モリタ 大阪本社: 大阪府吹田市垂水町3-33-18 〒564-8650 T 06.6380 2525 東京本社: 東京都台東区上野2-11-15 〒110-8513 T 03.3834 6161 [www.dental-plaza.com](http://www.dental-plaza.com)

# 商品の流通を通じて 上質な情報をお届けします。

刻々と変化する歯科医療環境。

ヨシダタロウがお届けする商品には

ちょっとした秘密が隠されています。

お客様の医院経営を成功させる

上質な情報もいっしょにお届けします。



## 宮内庁御用達 歯科医療総合商社

# 株式会社ヨシダタロウ

本社	〒110-0008 東京都台東区池之端 4-10-8	TEL03-3822-0621	FAX03-3822-0648
大宮営業所	〒337-0051 さいたま市見沼区東大宮 6-158-5	TEL048-686-1345	FAX048-686-1699
横浜営業所	〒241-0835 横浜市旭区柏町 132-6-101	TEL045-364-3041	FAX045-364-3078
日野営業所	〒191-0003 東京都日野市日野台 2-7-15	TEL042-586-6117	FAX042-584-6043
千葉営業所	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡 1134-6	TEL043-308-5591	FAX043-308-5592
商品センター	〒110-0004 東京都台東区下谷 3-13-5	TEL03-3876-0544	FAX03-3876-0644



東京デンタルスクール 代表

# おかだ 優二郎

進級・合格が不安?  
それなら  
東京デンタルスクール!

日本大学松戸歯学部卒業 学部長賞受賞  
日本アンチエイジング歯科学会 理事



## 東京デンタルスクール

Tokyo Dental School

SEO対策

SEOより上位も可能!  
駅近の地図と  
医院を検索で表示

Google MAP  
に上位表示

完全  
成功報酬

2,000円/日~

お申し込みフォーム

サジェスト検索

地名+歯科医院名を  
予測ワードで表示!!

ウェブ 画像 動画 音楽 期間限定 地図 リアルタイム 一覧

ピアノ教室 |

- ピアノ教室-おのり音楽教室

お申し込みフォーム

# Abutment Screwdriver

**HAKUHO**  
GOOD INNOVATION PARTNER

アバットメント スクリュードライバー

## 国内流通の主要インプラント 補綴用ドライバー6本組キット

アバットメントスクリューの取り外しおよび装着用途にご使用できます。新規患者さまの急な来院時にも対応可能です。

※手技用でもトルクレンチとセットしても使用可能です。



アバットメントスクリュードライバー セット

製品番号	価格
KTC0002	¥36,500(税別)

●製造販売元 **KTC 京都機械工具株式会社**  
<http://medical.ktc.jp/> (東証2部上場)

一般医療機器 歯科用インプラント手術器具  
届出番号: 26B3X10009170021

●販売元

**株式会社 白鵬**  
Zimmer Biomet社輸入販売元  
GOOD INNOVATION PARTNER

〒102-0083 東京都千代田区麹町1-3-23 ●製造販売業許可番号: 13B1X00079  
TEL.03-3265-6252 FAX 0120-118-084  
白鵬ホームページをご覧ください。▶▶▶▶▶<http://www.hakuho-d.com/>



健康にとって食事や栄養の摂り方を整えることは大切です

健康にとって心のあり方を整えることは大切です

## 全身管理歯科研究会

整えることが健康につながると考えています

皆様のお蔭をもちまして15年が経ちます。感謝申し上げます。

これからも 静脈内鎮静法、栄養療法、点滴療法などを通して

‘心身の健康’に微力ながら貢献したいと考えています。

ご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

全身管理歯科研究会

E-mail: [ivs.m.smile@gmail.com](mailto:ivs.m.smile@gmail.com)

国産唯一の国際インプラント (FDA取得)

## Mytis Arrow Implant

FDA

FDA K052254  
FDA K063236  
FDA K083372



MD 500024/ISO 13485



## ● ● ● ● Mytis は My teeth ● ● ● ●

マイティスアローインプラントとは、  
最高の骨結合率 95%以上の生体親和性に優れた国際インプラント。  
国際特許のβ-TCPでプラストした唯一のインプラント。

### Cure

歯を治す

マイティス・アロー  
インプラント

### Recovery

骨を造る  
アローボーンβ  
(骨造成材)



### Maintenance

歯と骨を守る  
βパウダー (歯面研磨材)

承認番号: 21500BZZ00187000  
承認番号: 22500BZX00553000  
一般医療機器: 13B1X00145000005



株式会社ブレンベース

営業時間 月～土 9:30～18:00  
(日・祝日・年末年始休業)

〒140-0014 東京都品川区大井 1-49-15 アクセス大井町ビル 6 階

TEL 0120-25-4929

FAX 0120-4929-37

<http://www.brain-base.com>



## このカブリオレは、完璧なまでにEクラス。

新型Eクラスに、待望のカブリオレが登場です。

クルマ自身がまるで知性を持つかのように周囲の状況を認識する、新たな運転支援システムを搭載。

安全性能がさらに高まっただけでなく、高速道路の渋滞時の自動運転\*1など、クルマの未来を一足先に実用化しました。

一年を通じて、快適なオープンエアドライブを楽しむことができる、Eクラス カブリオレ。

さらに、新しいデジタル・カーライフを実現する「Mercedes me connect」\*2にも対応。安全性、快適性、そのすべてがカブリオレの常識を超えていく。さあ、カブリオレの新しい喜びと、出会ってください。

## E-Class Cabriolet

Mercedes-Benz

The best or nothing.



E 200 Cabriolet 735万円 / E 200 Cabriolet Sports 804万円 / E 400 4MATIC Cabriolet Sports 1,113万円

\*1 アクティブディスタンスアシスト・ディストロニック&アクティブステアリングアシストは、車間距離・車線の維持、前走りに伴う加速・減速・停止、さらに高速道路で停止から30秒以内に前走車が発進した際の再発進まで自動で行います。●本機能はドライバーの安全運転を前提としたシステムで、事故被害や運転負荷の軽減を目的としています。走行中の状況により、認識性能・制御性能に限界がありますので、システムだけに頼った運転は行わず、常に安全運転を心がけてください。\*2 メルセデス・ミー・コネクトのご利用には、Mercedes me ウェブサイトでのユーザー登録が必要です。詳しくは、メルセデス・ベンツ日本の公式サイトをご覧ください。

[Photo] E 200 Cabriolet Sports (欧州仕様車) ●表示の価格は付属品及び税金(消費税を除く)、保険料、登録等に伴う諸費用を含まない車両本体のメーカー希望小売価格です。価格は販売店が独自に定めています。●リサイクル料金が別途必要となります。詳しくは、メルセデス・ベンツ正規販売店までお問い合わせください。

E-Class Cabrioletの詳細は、  
QRコードからWEBサイトへ。



メルセデスコール ☎ 0120-190-610 営業時間 /24 時間 365 日 年中無休 ※システムメンテナンス等によりサービスを休止する場合があります。あらかじめご了承ください。